

## 広島県における今後の高等学校教育の在り方を検討する協議会 中間まとめ（案）

### はじめに

本検討協議会は、平成 24 年 4 月 26 日、広島県における今後の高等学校教育の在り方について、「本県を支える人材の育成と今後の高等学校教育の在り方について」及び「本県における今後の高等学校の在り方について」の 2 つの事項について明らかにするよう諮問を受けた。

検討協議会では、平成 22 年 10 月に策定された「ひろしま未来チャレンジビジョン」を踏まえ、本県の特徴、高校生や若者の現状、高等学校の設置状況、本県高等学校の取組などを検証しながら、本県における今後の高等学校教育の在り方について 6 回の会議を開催し、協議を行った。

このうち第 1 回から第 3 回までの会議においては、「本県を支える人材の育成と今後の高等学校教育の在り方」をテーマに本県を内外から支える人材とはどんな人材か、生徒が高等学校で身に付けるべき力は何かなど、高等学校教育の目指す姿について協議を行った。

また第 4 回から第 5 回までの会議においては、「本県における今後の高等学校の在り方」をテーマに今後求められる高等学校、国・公・私立高等学校の役割について協議を行った。

ここに、これまでの協議内容をとりまとめ、「中間まとめ」として報告するものである。なお、今後、さらに協議の上、「答申」を取りまとめる予定である。

## I 本県を支える人材の育成と今後の高等学校教育の在り方について

### 1 検討に当たって

検討に当たり、広島県の特徴や若者、高校生の現状などについて確認を行った。  
委員から出された主な意見は次のとおりである。

#### (1) 広島県の特徴など

- ・中国山地や瀬戸内海など豊かで美しい自然に囲まれている。
- ・西日本有数の産業の集積地である。
- ・全国 47 都道府県の内第5位の国宝建造物数を誇り、神楽、茅の輪くぐり、花田植など、地域の文化的な遺産も非常にたくさんある。
- ・「広島」の名は、海外にもよく知られ、海外から多くの観光客が訪れるなど国際都市としての潜在的な魅力を持っている。
- ・全県的な少子化の問題を抱え、特に中山間地や島嶼部において過疎化の進行、医師の偏在など課題を抱えている。

こうした状況下において、様々な課題に対応し、社会の持続的な発展に寄与する人材の育成が急務となっている。

#### (2) 若者、高校生の現状

現在の若者、高校生については、素直である、社会に貢献したい気持ちが強い、あるいは情報収集能力が高いなど、多くの点で評価できるといった意見が出された。

##### 【評価できるとした意見】

- ・素直、やさしい
- ・和を大切にする
- ・スマート
- ・指示されたことは確実に実行する
- ・情報収集能力が高い
- ・情報機器を活用でき、プレゼンテーション能力が高い
- ・社会に貢献したいという気持ちが強い
- ・やる気になると素晴らしい行動力を発揮する
- ・新しい感性を持っている
- ・中山間地域では、地元の伝統芸能を守りながら地域の人たちと繋がりを持って頑張っている

しかし、一方で、議論や競争が苦手である、他者と協同して課題を解決するのが苦手である、あるいは実現したい夢を持っていないなどの課題がある。また、打ち込めるものを見つけ熱心に取り組む者と、興味を持てるものが見つからず楽しければよいと考える者へと二極化していると

いう意見も出された。

**【課題であるとした意見】**

- ・議論や競争が苦手
- ・課題解決の体験が不足，じっくり考えることが苦手
- ・物事の一面しか見ない，理解しようとしなない（全体を見通す洞察力に欠ける）
- ・かく在るべきという建前の意識がない
- ・多様な情報を比較検討して判断することが弱い
- ・人間関係づくりの体験が不足
- ・シャイ（恥ずかしがり）な面を持っている
- ・他者と協同して課題を解決するのが苦手
- ・叱られるとすぐに落ち込む
- ・挫折から立ち直る術を知らない
- ・本当に実現したい夢を持っていない
- ・国，郷土，母校を愛する意識が薄い

これらの意見は，各委員の経験から感じられる若者，高校生の傾向について示したものであり，言うまでもなく，全ての若者や高校生に同様であるわけではない。

## 2 本県を支える人材の育成と今後の高等学校教育の在り方について

### (1) 本県を内外から支える人材

はじめに、本協議会では、平成22年10月に策定された「ひろしま未来チャレンジビジョン」の人づくりの分野において掲げられた「本県を内外から支える人材」について、具体的にどのような人材であるのかを、先に整理した本県の特徴や若者、高校生の現状を踏まえ、協議を行った。委員から出された主な意見は次のとおりである。

#### 【本県を支える人材のイメージ】

- ・郷土の文化を知り、品性、産業界で活躍ができる力を身に付け、広島県から世界に発信できる人材
- ・グローバル化に対応できる人材
- ・科学、文化、スポーツなどの特定の分野に秀でた力を有する人材
- ・第一次産業に付加価値をつけ企業化していく人材
- ・社会に貢献できる人材

これらの意見を集約し、本県を内外から支える人材を、本県を内側から支える人材と外側から支える人材の大きく二つの視点に分けて、次のように整理した。

#### ア 内側から支える人材

本県を内側から支える人材とは、本県の強みの一つであるものづくりをはじめとする様々な産業に携わり、科学や技術に関する高い知識や技能を持って本県産業の発展を支える人材、技術と熱意を持って地域の医療を支えるなど県民の安心な暮らしを支える人材、地域の活動に積極的に参加し、地域が抱える課題の解決に取り組むなど、豊かな地域づくりに貢献する人材などであり、言い換えると「地域」で活躍する人材である。

#### イ 外側から支える人材

本県を外側から支える人材とは、グローバル化が進展する中で主体的にものを考え、行動する力を持ち、県外のみならず、国外において、産業はもとより、文化、スポーツ、科学など様々な分野において活躍する人材である。

こうした人たちの活躍は、子どもたちをはじめ、本県に暮らす人々に夢や希望を与え未来への新たな活力に繋がっている。

### (2) 生徒が高等学校で身に付けるべき力

次に、本県を内外から支える人材についての議論を踏まえ、生徒が高等学校で身に付けるべき力について協議した。

協議の中で、中学校卒業者の約98%が高等学校へ進学するとともに、高校卒業者の約58%は

大学、短期大学へ進学，約 23%は専修学校などへ入学，約 13%は就職するという現状（平成 24 年公立学校基本数）を踏まえると，高等学校には，人格の基礎となるものを完成させるという役割と，上級学校に進学するための基礎，または社会に出て就職するための基礎を身に付けさせるという役割があるとの意見があった。

このため，高等学校においては，社会的に自立する上で求められる普遍的な力を卒業までに身に付けさせることが必要である。また，それに加えて生徒個々が夢を実現し，グローバル化した社会で活躍できる力を付けることも重要である。

以上のことを踏まえ，生徒が高等学校で身に付けるべき力を全ての高校生が身に付けるべき力と，生徒が個々の状況に応じて社会で活躍できるように身に付けるべき力の 2 つに分けて，次のように整理した。

## ア 全ての高校生が身に付けるべき力

社会的に自立する上で求められる普遍的な力とは，知・徳・体のバランスのとれた力（「生きる力」）とすることができるが，具体的なイメージとして，例えば，基礎学力を身に付け，変化に対応し，自ら主体的に考え，判断し，行動できる力や，自己を確立するとともに自分以外の他者を受容し共生できる力等として捉えることができる力である。

### 【委員から出された主な意見】

- ・ 基礎的な学力（外国語の力も含む）が重要である
- ・ 生涯を通じて学ぶ意欲・態度が重要である
- ・ 社会に貢献しようとする態度が重要である
- ・ 自己の確立が重要である
- ・ 環境の変化に対応し，自分以外の他者を受容し，共生できる能力・態度が重要である
- ・ 自ら考え，意見を発信し，行動できる能力・態度が重要である

## イ （高校生が個々の状況に応じて）社会で活躍するために身に付けるべき力

生徒個々が夢を実現し，グローバル化した社会で活躍できる力とは，例えば，科学，ものづくり，文化，スポーツなど特定の分野に秀でた能力，知識や技能，あるいは困難な課題に直面したときに，意欲的に，粘り強く取り組む力や態度，リーダーシップを発揮し他者の力を生かすことのできる力などである。

### 【委員から出された主な意見】

- ・ 特定の分野における一流の技（力）を極めるために必要な知識，技能
- ・ 特定の分野における一流の技（力）を極めるために，意欲的に，粘り強く取り組む力や態度

## 【参考】

- ① 生きる力（平成20年1月17日中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」）
  - ・基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力
  - ・自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性
  - ・たくましく生きるための健康や体力など
- ② 国際バカロレアの学習者像（文部科学省ホームページ「国際バカロレアについて」）

Inquirers	探究する人
Knowledgeable	知識のある人
Thinkers	考える人
Communicators	コミュニケーションができる人
Principled	信念のある人
Open-minded	心を開く人
Caring	思いやりのある人
Risk-takers	挑戦する人
Balanced	バランスのとれた人
Reflective	振り返りができる人

（注）国際バカロレア：インターナショナルスクールの卒業生に、国際的に認められる大学入学資格を与え、大学進学へのルートを確保するとともに、学生の柔軟な知性の育成と、国際理解教育の促進に資することを目的として1968年に国際バカロレア機構が発足した。国際バカロレア機構は、スイスのジュネーブに本部を置き、認定校に対する共通カリキュラムの作成や国際バカロレア試験の実施及び国際バカロレア資格の授与などを行っている。国際バカロレアには、3歳～19歳の子どもの年齢に応じて3つのプログラムがある。

### （3）高等学校教育が目指す姿

続いて、（1）本県を内外から支える人材及び（2）生徒が高等学校で身に付けるべき力の議論を踏まえ、高校生が高等学校において身に付けるべき力を育成し、将来、本県を内外から支える人材となるために、高等学校教育が目指すべき姿について協議した。

委員から出された主な意見は次のとおり。

### 【学校教育が目指すべき姿】

- ・幅広い教養の基礎的な部分を習得させることによって、高等教育などへ繋げる
- ・目の前の地域の職業、産業に目を向けることによって、目標となる職業を見出す
- ・基礎的・基本的な力（学力）をきちんとつけることによって、将来何かに挑戦するときの基盤を培う
- ・社会や他者との繋がりを意識できる機会を設けることによって、自己肯定感を育む
- ・本物や一流のものに触れる機会を設けることによって、夢や意欲を持たせる（スイッチを入れる）
- ・スポーツや芸術などを通じた人間づくりを行うことによって、心身の強さや人間性を養う

こうしたことから、本県を内外から支える人材及び生徒が高等学校で身に付けるべき力について、これまでの議論を踏まえ、本協議会では、高等学校教育の目指すべき姿を次のとおり整理した。

高等学校教育においては、生徒が将来社会で自立して生活を送ることがするために必要な心身の強さや人間性を養うという観点が重要である。また、生徒の進路希望の実現を図るという観点も重要である。

大学などへの進学を希望する生徒に対しては、基礎基本を確実に身に付けさせ、大学など高等教育機関への円滑な接続を図ることが求められている。また、高等学校卒業後、直ちに就職することを希望する生徒に対しては、基礎的・基本的な職業に関する知識・技能などを身に付けさせ、将来、産業界で活躍できるような人材を育成することが求められている。

こうした生徒に心身の強さや人間性を養うという観点、生徒の進路希望の実現を図るという観点のいずれにおいても、生徒に夢と学ぶ意欲を持たせ、学びを实践させることにより、成功体験を積み上げるとともに学ぶ意義に気づかせ、さらに学ぶ意欲を強めるという好循環を作り上げることが必要である。

なお、こうした高等学校教育の目指すべき姿を実現するに当たり、次のような取組が重要であるとの指摘があった。

- ・体験活動や他者との関わりを通して自己肯定感を育む取組が重要である。  
また、生徒に夢や意欲を持たせるために、各界で活躍している人やその人の持っている技術に生徒に触れさせるなどの機会を設けることも重要である。
- ・文化・スポーツや理数系などの能力を伸ばす、海外へ出て活躍する、あるいはこれから夢や目標を見つけるなど、生徒個々の多様なニーズに適切に対応するために、各高等学校が特色ある教育を更に推進することも求められる。  
また、中途退学をする生徒や不登校傾向のある生徒が持っている可能性を引き出して能力を伸ばすなど、様々な困難を持ちながら勉強している子どもたちを支えるという観点も大切である。  
なお、特色ある教育については、教育課程上の制度と内容における特色化、部活動における

特色化などを図る必要があり、それらを進めるに当たっては、地域事情など各校の状況を考慮して行うべきである。



## Ⅱ 本県における今後の高等学校の在り方について

### 1 今後、求められる高等学校

これまでの高等学校教育の目指す姿についての協議を踏まえて、今後の高等学校の在り方について協議を行った。

まず始めに、今後求められる高等学校について、社会的自立のために必要な力の育成と生徒個々の多様なニーズへの対応が必要であるという観点から、次のとおり整理した。

#### (1) 基礎・基本の力（コア）を育成する学校

グローバル化の進展など、激しく変化していく社会で活躍できる人材を育成するためには、全ての高等学校において、基礎的な学力、思考力、判断力、行動力及び自分以外の他者を受容し共生できる力はもとより、各々の職業で必要とされる基礎的な専門知識や技能などを身に付けさせる必要がある。

また、生徒に学ぶ目的や意義を自覚させるとともに、将来への目的意識を持たせ、将来の夢の実現に向け、粘り強く取り組む姿勢を育成することが重要である。

こうした基礎・基本の力（コア）を身に付けさせるためには、学習活動や部活動、学校行事などを通じて、生徒の努力や成果を発表する機会を確保することにより、自己肯定感を高めることが求められる。

また、地域や企業、研究機関など、学校外の団体などとも連携し、社会で活躍する人（例えば、一流の技術者や研究者など）と触れ合う機会を設けることにより、生徒が学ぶことの意義を感じられるようにすることが重要である。

さらに、教員自らが学び続ける意欲や姿勢を、生徒に示し続けることが必要である。

加えて、学校間が連携することにより、優れた授業や取組をより多くの生徒が享受できるようにする必要がある。

#### (2) 生徒の多様なニーズに対応する学校

文化・スポーツや理数系などの能力を伸ばす、海外へ出て活躍する、あるいはこれから夢や目標を見つけるなど、生徒の多様なニーズに適切に対応するためには、各高等学校が特色ある教育を更に推進することが求められる。

このためには、各高等学校が生徒のどのような力を伸ばすのか、どのような生徒を育成するのかについて明確な目標を持ち、それを実現するための有効な取組を実践することが重要である。

また、高等学校はそれぞれが目指す目標並びに目標を実現するために取り組む教育内容などの学校の特色について、中学生や保護者などが認知できるよう広報を充実させることにより、義務教育諸学校で行われるキャリア教育との連携を図り、子どもたちが将来の夢の実現に向け適切な高等学校への進路選択が可能となるよう努める必要がある。

さらに、生徒が自分のやりたいことを見つけ、その実現を目指して高等学校を転学することが真に必要な場合には、他の高等学校への転学ができるように、要件の緩和について、検討する必要がある。

### (3) 特色ある教育を推進するために留意すること

特色ある教育の推進においては、次のことに留意する必要がある。

- ・都市部や中山間地域（または島嶼部）など、地域による異なる状況、それぞれの特色を踏まえる。
- ・将来の夢や目標を持つ生徒が個々の状況に応じて特色ある教育を受けられるよう、高校3年間を通じて学ぶ中で、柔軟に対応できる体制の整備を行う。
- ・進学や就職などの進路の観点だけでなく、豊かな人間性を育む観点から、例えば部活動について教育課程との関連を図ることや学校行事などにおける家庭や地域の人々との連携、社会教育施設などの活用などの工夫（特色づくり）も行う。
- ・各学校が特色ある教育を進める上で、必要となる人的・物的資源の有効活用として、教員以外の人材の活用や、学校間の連携など学校の従来の枠組みを越えた仕組みづくりを研究する。

## 2 求められる高等学校の方向性

### (1) 基礎基本の重視

全ての高等学校で、大学などへ進学したり、社会に出て、より高い専門性を身に付けたりするための基礎として、知徳体を総合的にバランスよく高める教育を行う必要がある。

### (2) 特色のある高等学校

本県において、今後検討すべきと思われる「特色のある高等学校」は次のとおりである。

#### ア 中高一貫教育校

中高一貫教育校については、平成16年度に開校した併設型の中高一貫教育校である県立広島中・高等学校が中期目標として掲げたグローバル化に対応した教育への満足度、生徒の授業満足度、難関国立大学などの合格者数の目標を概ね達成するなど生徒、保護者の期待に応じている。

こうした広島中・高等学校における成果を踏まえ、中山間地域も含め、県内の他の地域から併設型中高一貫教育校の設置を求める声がある。

また県内には、中山間地域において設置者の異なる市町立中学校と県立高等学校が緩やかな一貫教育を行う連携型の中高一貫教育を実施している学校が複数校あり、それぞれが地域の特徴を生かした取組により、一定の成果をあげており、県内の他の地域において、設置を求める動きがある。

中高一貫教育校の新たな設置については、県内各地域の実情などを踏まえ、これまでの取組や成果を生かしながら、検討する必要がある。

中高一貫教育校の設置については、次のような意見もあった。

- ・中高一貫教育の導入時に、国会の附帯決議において、受験エリート校化など、偏差値による学校間格差を助長することのないよう十分配慮することや、中学校からの入学者選抜に当たって学力検査を行わないようにし、受験競争の低年齢化を招くことのないよう十分配慮することとされた趣旨を尊重しなければならない。
- ・新たに併設型中高一貫教育校を設置する際には、私学との役割分担や、財政的な事情を考えると、広島中・高等学校のように新たに学校をつくるのではなく、既存の高等学校や中学校をベースにして設置することを検討する必要がある。
- ・中山間地域や島嶼部においては、地域の自然や芸能・文化を生かした取組を併設型中高一貫教育で実施するなど、進学実績を重視するのではなく、地域の特色を生かした併設型中高一貫教育校もあってもよいと考える。

## イ 定時制・通信制

高等学校の生徒数が減少する中で、定時制及び通信制に通う生徒の割合はむしろ上昇しており、その在籍者数全体では5,500人を超えている（平成24年度公立学校基本数調査）。

定時制及び通信制課程には、従来のような勤労青少年だけでなく、中学校時代に不登校傾向のあった生徒、高等学校を退学して再び高等学校で学び直そうとする生徒など、様々な事情や背景を持った生徒が入学しており、こうした生徒の持っている可能性を引き出し、能力を伸ばすことが求められている。

現在の定時制課程の多くは、全日制課程の高等学校に定時制課程1学級が併置され、また夜間部の設置が多いという状況になっており、こうした状況を改善し、「県立高等学校再編整備計画」に掲げられている定時制課程と通信制課程を併せ持った高等学校を設置することを、引き続き検討する必要がある。

## ウ 専門高校・専門学科

専門高校・専門学科は、これまで幅広い分野で産業、社会を支える人材を輩出しており、今後もその役割を果たすことが期待される。

このため、専門高校・専門学科においては、

- ・専門分野の基礎的・基本的な知識、技術、技能の定着を図る教育を行うこと
- ・それぞれの専門分野だけでなく、他の学科などとの関連にも配慮し、幅広い知識、技術を身に付けさせる教育を行うこと
- ・ものづくりへの興味と意欲、技能や製品に対する厳しさと自信、飽くなき向上心を身に付けさせる教育を行うこと
- ・職業人としての規範意識や倫理観などを醸成し、豊かな人間性の涵養にも配慮した教育を行うこと
- ・産業構造の変化、科学技術の進歩などの情勢の変化に対応した教育を行うことが重要である。

また、農業科、工業科など農産物や製品などの「ものづくり」を学ぶ学科においては、もの

を生産製造する技術、技能を身に付けさせる教育に加え、売れる商品を開発する能力を育成するため、マーケティングに関する基礎的な知識と技術を身に付けさせることも重要である。

専門高校・専門学科の各学科の取組について、委員から出された意見は次のとおりであった。

#### **(農業科)**

- ・将来のスペシャリストとなるためには、農業生産の基礎基本だけでなく、気象学、地質学、生物の生態系、土木建築、電気、水道などの幅広い知識、技術が必要である。
- ・日本の農業だけでなく、外国に出て行って世界の農業を学んで欲しい。

#### **(工業科)**

- ・工業高校では、職人気質、職人魂といったものづくりの心を持った人材を育てて欲しい。
- ・ものづくりの心を深めるためには、早いうちから世界レベルの技に触れることが必要であり、そのためには企業と高等学校の連携が重要となる。
- ・企業と高等学校の連携については、インターンシップを充実することや、ドイツで実施されているデュアルシステム（現場と学校を行き来しながら学ぶ職業教育）の導入なども検討するべきである。

※商業科など、他の専門学科・・・インタビュー結果などを踏まえて記載する。

### **エ その他**

例えば、中山間地域における医療を支える医師や学校教育を支える質の高い教員の育成など、本県の抱える課題等に対応した様々な人材を育成する観点から、高等学校が果たすべき役割等について、今後も検討していく必要がある。

その際、他県や諸外国の取組も参考にしつつ、海外の大学への進学を目指す学校や職場体験を重視した学校の設置など、従来の高等学校や学科の枠に捉われない人材育成の在り方についても、検討していく必要がある。

#### **(3) コアを重視しつつ、コース制などにより特定の機能を強化する高等学校**

普通科においては、基礎的な教養をしっかりと学びつつ、コースや類型を設けて、芸術など特定の分野を特化して学ぶことができる高等学校あるいは、普通科と他の学科が併設され、授業などにおいて学科間で連携することにより、多様な学びを提供できる高等学校などについても検討するべきである。

#### **(4) 生徒が夢や意欲を持つための取組**

生徒が夢を持ち、その実現に向かって意欲的に学ぶ態度を育むための取組を、各学校が工夫して実施することが重要である。例えば、生徒が各分野で活躍する一流の人から話を聞いたり、一流の技に直接触れたりすることにより、高等学校で学ぶことの意義を自ら見つけるなどが期待できる。各学校において、それぞれが育成する生徒像の目標に応じて、こうした取組が積極的に企画され、生徒一人一人が将来の夢を育み、学ぶ意欲を高める環境の充実に努める必要がある。

## **(5) 特色づくりを進める上での留意事項**

県内の高等学校教育において、特色ある教育づくりを進める上で、必要となる人的・物的資源の有効活用に資するために、次のような仕組みづくりなどを研究する必要がある。

- ・社会で活躍する人（例えば一流の技術者や研究者など）と接することができるように企業や研究機関など、学校外の団体との連携
- ・優れた授業や取組をより多くの生徒が享受することが可能となる学校間の連携
- ・海外の姉妹校に加え、県内の学校同士で行う学校間の交流などにおけるICT（情報通信技術）の活用の研究
- ・生徒が自分のやりたいことを見つけ、その実現目指して高等学校を転校することが真に必要な場合には、他の高等学校へ移れるように転学要件の緩和
- ・各学科の中での特色だけでなく、例えば学校行事などの中で特色づくり

## **3 国・公・私立高等学校の役割**

### **(1) 国立高等学校の役割**

国立大学附属学校は、「教育実習」と「教育研究」という二つの大きな役割を担っている。教育実習については、附属高等学校をはじめとする中等教育段階の実習のほか、広島大学附属学校園全体として、附属幼稚園や附属小学校における教育実習など、多様な教育実習が行われている。また、教育研究については、とりわけ教育実践に根ざした研究活動を推進している。

### **(2) 私立高等学校の役割**

私立高等学校は、スポーツを通じて人間教育を行う学校、宗教に基づいた道徳教育を行う学校など、各学校が建学の精神に基づく特色教育を推進しており、都市部を中心に、生徒数において本県高等学校教育の約3割を占め、公教育の一翼を担っている。

### **(3) 公立高等学校の役割**

公立高等学校は、高等学校の教育の普及及び機会均などを確保する観点から、広く県民のニーズに応えつつ、全県的な視野に立って教育を提供している。

国立高等学校、私立高等学校及び公立高等学校は、協力又は補完しあいながら、広島県全体の高等学校教育を推進していかねばならない。

また、併せて、本県の高等学校教育の在り方を考えるとき、国・公・私立高等学校は、補い合うとともに、同じ公教育を担うという立場から、互いに切磋琢磨し、広島県全体の教育水準の維持・向上に努めることが求められている。

なお、特色のある学校・学科の中には、生徒のニーズが低いために定員に満たない恐れのある学校・学科があるものの、本県の将来を見据えたときに、社会的なニーズが高いと考えられる学校・学科については、国立又は公立の高等学校において設置することを検討する必要がある。

また、私立高等学校については、各校が建学の精神に基づく教育を行い、県内の高等学校の特色ある教育を牽引するなど、本県において求められる高等学校教育に果たす役割は大きい。国・公立高等学校と比べ、保護者の学納金の負担が大きいため、同じ土俵での競争ができないという指摘がある。

一方で、家庭における経済状況の格差が広がっている現状においては、保護者の負担の少ない公立高等学校の役割は、都市部、中山間地域・島嶼部にかかわらず大きい。

保護者の負担を考慮すると、公・私立高等学校の生徒の受入れ比率を調整するよりも、例えば私立高等学校に対する補助金を増やすなど、公立高等学校高校と私立高等学校が同じ条件で競争できる環境を整えることが望ましいという意見もあった。

## おわりに

本検討協議会においては、これまでの6回わたる会議の協議内容を、この度中間まとめとして報告したところである。

今後、「県立高等学校の配置の方向性」について引き続き検討を行い、これまでの協議内容と合わせて本県の高等学校教育の在り方について、その方向性を答申として取りまとめて参りたい。